

気をつけよう!! 海のキケン生物

夏になると現れるハブクラゲ。皆さんはどれくらいハブクラゲのことを知っていますか？刺されてもぜんぜん平気、なんて思っていないませんか？ホントはキケンなハブクラゲ。ハブクラゲのことを知って夏に備えましょう。



刺されないためには

どうしたらハブクラゲに刺されないのでしょうか。一番のおすすりは「クラゲ侵入防止ネット」の内側で泳ぐことです。ネットはハブクラゲが入りにくい構造になっており、安全に遊泳を楽しめます（まれにネットの中にハブクラゲが侵入してしまうこともあります。見かけたら、ビーチの監視員に伝えましょう）。

では、ネットのない海岸で泳ぐ時はどうしたらよいでしょう。ウエットスーツや長袖のシャツ、スパッツなどを着用して、肌を露出しないようにしましょう。ハブクラゲに刺されても被害を最小限に留めることができ、日焼けも防止できます。

楽しいはずの海水浴。ちょっとした油断で台無しになってしまわないよう、しっかりと予防しましょう。



刺されたら

どんなに気をつけても、ハブクラゲに刺されることがあります。刺された時はすぐに助けを呼び、海から上がってください。

刺された所にハブクラゲの触手が残っていたら、こすらずに（被害が広がります）、食酢を三十秒ほどたっぷりかけてから触手を取り除きます。酢をかけた後に触手が残っていたら、そとがはがしてください。痛い場合は氷や冷水で冷やすと楽になります。

広範囲を刺された場合は、呼吸や心臓が止まってしまふこともあります。すぐに、周りの人が人工呼吸と心臓マッサージをしながら、救急車を呼びましょう。

ハブクラゲ以外にも毒をもつ生き物はイソギンチャクやオコゼ、ウニなどたくさんいます。もしもの時に備えて、しっかりと覚えておきましょう。



海にはキケンがいっぱい!

もうすぐ梅雨も明け、海水浴が楽しいシーズンです。沖繩の海には色とりどりの生き物がいて、見るだけでも楽しいものです。しかし、毒をもつキケンな生物も多くいます。沖繩の海では年間三百人以上がキケン生物の被害にあっています。

特に、「ハブクラゲ」による被害が、全体の半数以上を占めます。これまで、三人の子供が亡くなるなど、ひどく刺された場合は命にもかかります。軽く刺されたとしても、人によっては刺されたあとがヤケド痕のように盛りあがり、何年も消えないこともあります。

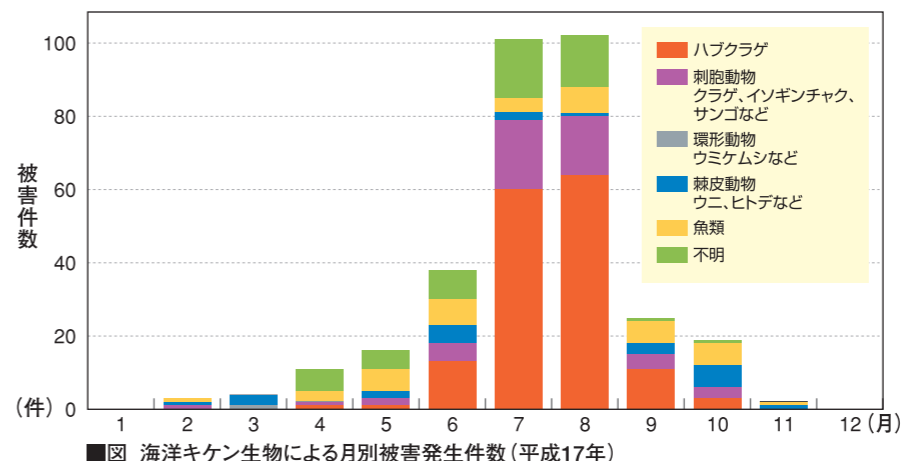
泳ぎたい夏はハブクラゲも活発だ

ハブクラゲによる被害は、七、八月に集中しています（図）。これはハブクラゲが成長して大きくなる時期と海水浴の時期とが重なるためです。

また、波打ち際近くの浅瀬で、多くの被害が発生しています。衛生環境研究所の調査結果では、ハブクラゲは夕方から夜間に活動し、朝方から日中は岸近くの浅瀬で過ごしていることがわ

かってきました。

ハブクラゲがいる浅瀬では、子供たちが泳いでいます。子供は体が小さいので、刺されてしまうと、体内に占める毒の割合が大人に比べて高くなり、症状も重くなってしまうます。



生物によってちがう応急処置法

<p>アンボイナガイ</p> <p>応急処置 すぐに病院へ運ぶ。毒を吸い出す。</p>	<p>ウミヘビの仲間 (クロガシラウミヘビ)</p> <p>応急処置 すぐに病院へ運ぶ。毒をしぼり出す ※飲み込むとキケンです</p>	<p>カツオノエボシ</p> <p>応急処置 海水で刺胞球や触手を洗い流し、氷や冷水で冷やす。 ※酢は絶対に使わないで下さい。</p>	<p>イソギンチャクの仲間 (ハタゴイソギンチャク)</p> <p>応急処置 目に見える大きなトゲはとりのぞき、40~45℃程度のお湯につける。ビニール袋にお湯を入れ、患部に当ててもよい。 ※ヤケドに注意</p>	<p>ウンパチイソギンチャク (猛毒)</p>	<p>ヒョウモンダコ</p>	<p>オニヒトデ</p>	<p>オニダルマオコゼ</p>	<p>ガンガゼ</p>	<p>ミノカサゴの仲間 (ハナミノカサゴ)</p>	<p>ゴンズイ</p>
--	--	--	---	-------------------------	----------------	--------------	-----------------	-------------	---------------------------	-------------

お問い合わせ 県薬務衛生課 TEL:098-866-2215 FAX:098-866-2241